

T H A N A T O S

by Kenjiro Higuchi

みぎわ
江の川
もの

フォークの先
希望の後

Medieval Japanese Literature

講談社
文庫
●



講談社文庫

常州大学図書館
フ 蔵ク の 希 章 の 後
THANATOS

訂こるもの

講談社

著者 | 汀こるもの 1977年生まれ。大阪府出身。追手門学院大学文学部卒。『パラダイス・クローズド』で第37回メフィスト賞を受賞しデビュー。著書に『まごころを、君に』『リッターあたりの致死率は』『赤の女王の名の下に』『空を飛ぶための三つの動機』『立花美樹の反逆』などのTHANATOSシリーズ、『完全犯罪研究部』『動機未ダ不明』『少女残酷論』（いずれも講談社）などの完全犯罪研究部シリーズがある。

フォークの^{さき}先、^{きほう}希望の^{あと}後 THANATOS

^{みぎわ}
汀こるもの

© Korumono Migiwa 2013



講談社文庫

定価はカバーに
表示してあります

2013年2月15日第1刷発行

発行者——鈴木 哲

発行所——株式会社 講談社

東京都文京区音羽2-12-21 〒112-8001

電話 出版部 (03) 5395-3510

販売部 (03) 5395-5817

業務部 (03) 5395-3615

Printed in Japan

デザイン——菊地信義

本文データ制作——講談社デジタル製作部

印刷——豊国印刷株式会社

製本——株式会社若林製本工場

落丁本・乱丁本は購入書店名を明記のうえ、小社業務部あてにお送りください。送料は小社負担にてお取替えします。なお、この本の内容についてのお問い合わせは文庫出版部あてにお願いいたします。

本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することはたとえ個人や家庭内の利用でも著作権法違反です。

ISBN978-4-06-277424-6

目次

フオークロア 11

The Aquarium-mania League 21

コーカス・レース 44

眠れる森の美女の夢と現実 70

mortal and immortal 82

彼女の事情 104

ヤマアラシのジレンマ 118

喪服の幽霊 138

Looking-glass House 153

The Hunting of the Snark 187

悪意の増幅 202

彼の名は 235

高槻のタナトス	255
怪物たち	271
グレーテ・ザムザの罪	294
呪文	308
探偵降臨	323
善意の密室	341
罪深き我ら	358
察しと思いやり	365
アガペー	375
フオークと希望をもつて	394
あとがき	410
解説 田端しづか	415



講談社文庫

フォークの先、希望の後

タナトス
THANATOS

訂こるもの

講談社

目次

フオークロア 11

The Aquarium-mania League 21

コーカス・レース 44

眠れる森の美女の夢と現実 70

mortal and immortal 82

彼女の事情 104

ヤマアラシのジレンマ 118

喪服の幽霊 138

Looking-glass House 153

The Hunting of the Snark 187

悪意の増幅 202

彼の名は 235

高槻のタナトス 255

怪物たち 271

グレーテ・ザムザの罪 294

呪文 308

探偵降臨 323

善意の密室 341

罪深き我ら 358

察しと思いやり 365

アガペー 375

フオークと希望をもつて 394

あとがき 410

解説 田端しづか 415

登場人物

浅岡彼方あさおか かなた

太陽美術大学学生。熱帯魚店でアルバイトをしている

磐井祥子いわい さちこ
遠見 柚とおみ ゆず

太陽美術大学学生。ミステリマニア
太陽美術大学学生。ゴスロリ少女

安本孝一やすもと こういち
御堂君宏み どうき みひろ
城島伸吾じょうしま しんご

“怪魚処 やすもと” 店長
“怪魚処 やすもと” 店長代理
“怪魚処 やすもと” 店員

浅岡遼あさおか はるか
浅岡 通あさおか みちる

彼方の弟。高校生
彼方の弟。中学生

あさおかえいこ
浅岡栄子

彼方の母

たちばなまさき

立花真樹

謎の高校生

たかつき

高槻

謎の青年

みなと

しゅんすけ

湊

俊介

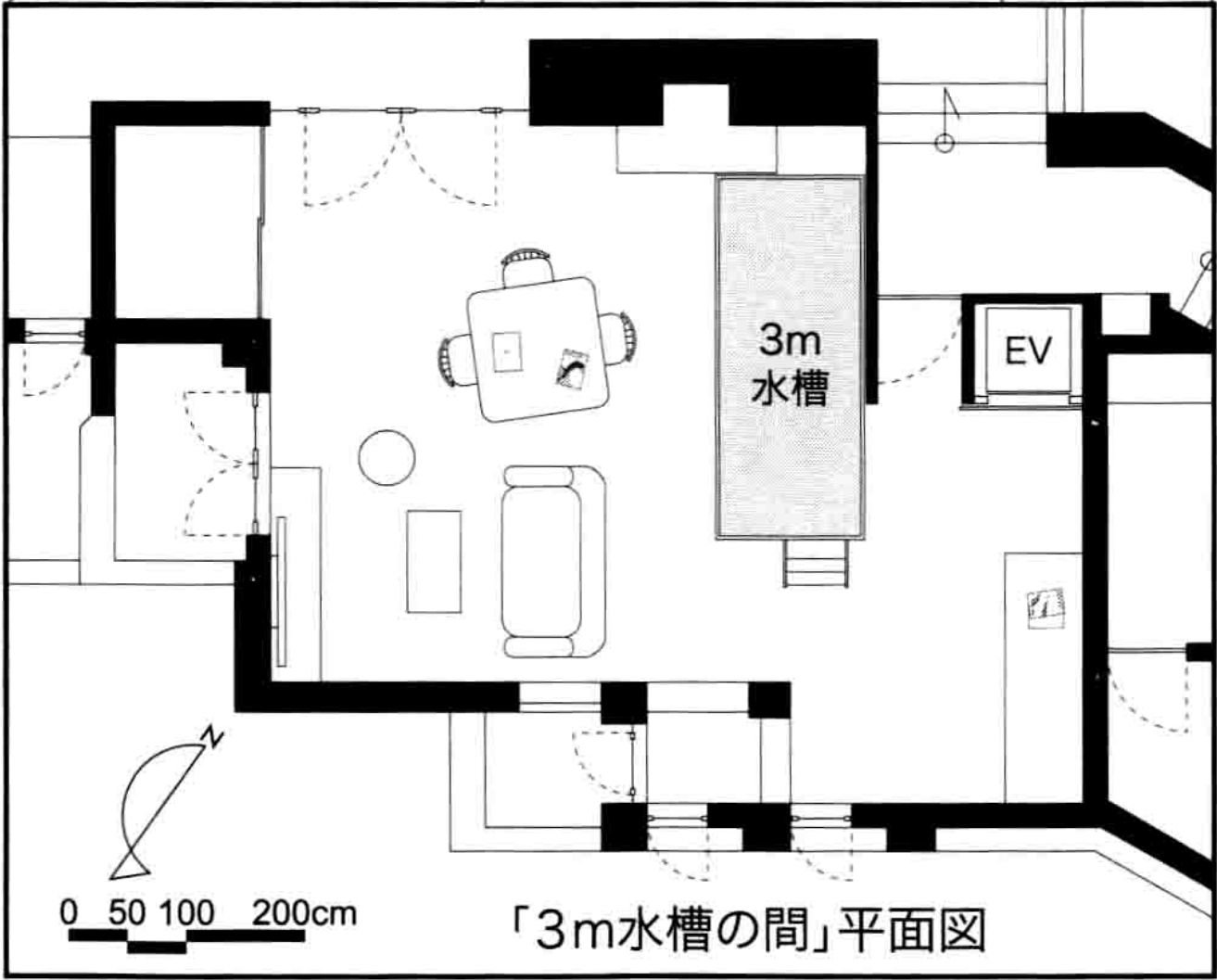
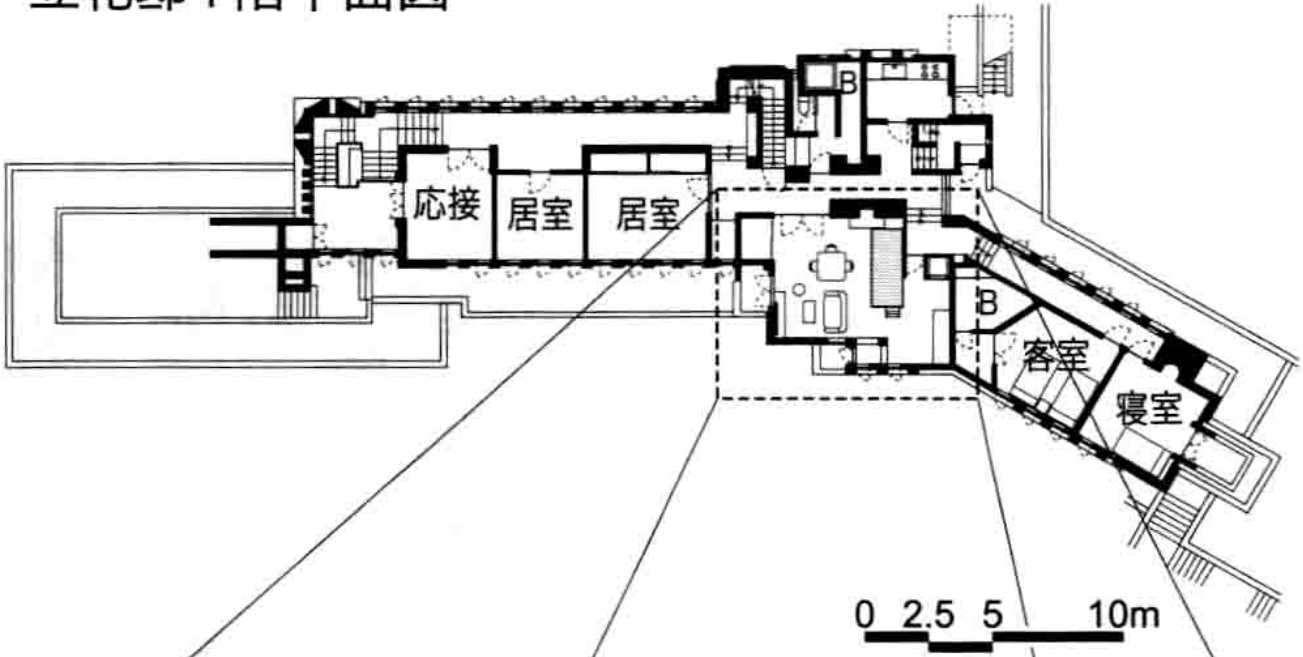
謎の警察官僚

タナトス

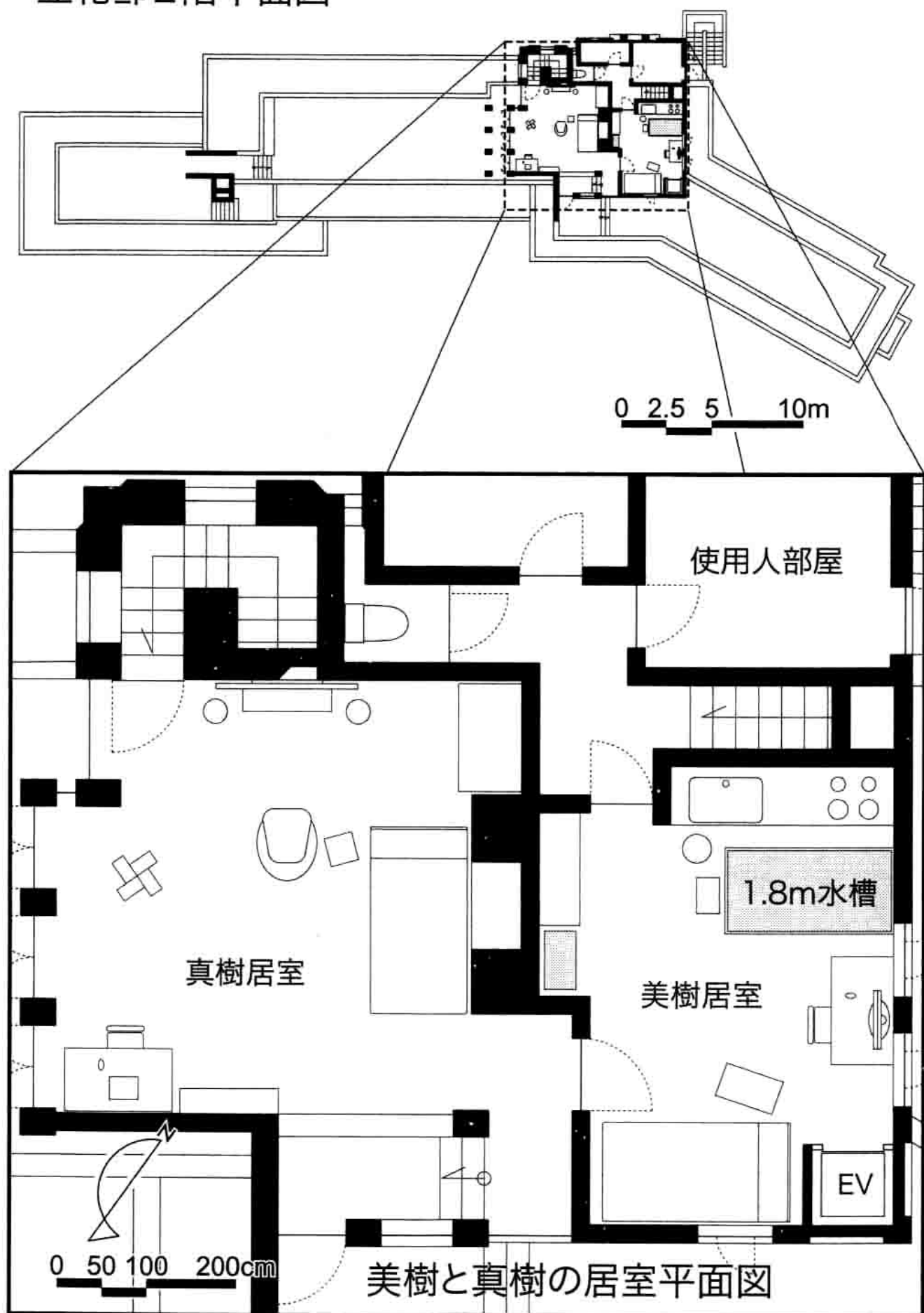
“thanatos666”

全部謎

立花邸1階平面図



立花邸2階平面図



図面作製: エス

携帯電話がなかなかつながらない。十三回目のコールまで待った自分の忍耐を褒めたいところだ。

「――何だ。つまらない電話なら切るぞ」

上司の声は不機嫌そうだった。上司相手の電話につまるもつまらないもない。

「まあ、さほど珍しい話でもありませんが」

つぶやいた声で、思ったよりずっと自分が冷静なことに気づいた。

「人を、殺してしまったようです」

その言葉も、てらいもなく滑り出した。至極冷静に状況を説明していると、アスファルトに転がった死体が嫌でも目に入る。

知らない男だった。二十代か三十代か。随分ずいぶん偏った食生活をしているようだが、着

るものにはあまりこだわりがないらしい。安っぽいTシャツの上からも肉の段差が見て取れる。今どきストーンウォッシュのジーンズなんてどこで売っているのだろう。

暑い季節なのにあまり風呂にも入っていないのではないだろうか。体臭の強いのに辟へき

易^{えき}する。

何か一つくらい同情したいのだが、今のところ何も思いつかない。

報告を終えて電話を切ると、一息入れたくなつた。普通なら煙草^{たばこ}を喫^すう場面なのだろうが、生憎^{あいにく}習慣がない。

とりあえず歩道の脇に自動販売機を見つけたので、コーヒーを一本買うことにした。ミニ缶を軽く振つてプルトップを引く。——あんまり様にならないと思つた。ついついものくせでミルク二十パーセントの甘いのを選んでしまつたが、こういうときはブラックを飲むべきだつた。

コーヒーはいつも通り甘い。飲んでいると、コンビニ袋を手にダックスフントを連れた老人が通りかかった。倒れた男の姿に驚いたらしく、駆け寄る。犬も男の匂^{にお}いを嗅^かぐ。

「どうしたね、あんた。気分でも悪いのかい？」

「無駄ですよ、もう亡くなつてます。警察にも連絡を済ませました。今パトカーを待つてるところです」

簡潔に言うようなことでもなかった。老人はますます驚いたらしく、目を剥^むいてこっちを見る。

「亡くなつたつて、またどうして？」

「心臓麻痺まひでしようね」

——詭弁ぎべんだ。心筋が麻痺して再鼓動しない状態を“死亡”と言う。死んだから麻痺したのであつて、原因ではない。彼の言葉に込められた皮肉は、老人には通じなかつたようだ。

「あんた、知り合いかい？ 前から心臓が悪い人だつたのかい？」

「さあ。おれも通りすがりなのでよくは」

飼い主の鈍さとは対照的に犬には彼の後ろめたさがわかるのか、低くうなつて吠え始めた。老人がリードを引くが、なかなか収まらない。

「——勘弁してくれよ」

遠くにパトカーのサイレンが聞こえた。コーヒーを飲み干すと、犬の声に紛れるように小さくつぶやいた。

「恨むなよ」

フォークロア

ここ五年ほどのことだ。東京二十三区内の観賞魚専門店にはおかしな噂うわさがあつた。主に中央区ちゆうおうく近辺で、大型魚——アジア・アロワナやアマゾン産淡水エイ、それにポリプテルスのイレギュラーを好んで買ってゆく、黒ずくめの美少年。

他はまだしもアジア・アロワナの成魚は子供の小遣いで買えるようなものではない。サラリーローンを組んでもいっぱいいっぱいな代物だが、彼はどんな高級魚でも、気に入ったら限度額なしのブラックカードで即買いしてしまう。一括払いで。政治家の息子らしい。

そこまでは大して変わった客でもない。——何せアジア・アロワナは後ろ暗い種類の人間を含む、金持ちに好まれる魚。龍の名を冠した古代魚は男らしい威厳があり、色によつてはかなり高額で稀少で、水と龍で風水的に縁起がいい。何をして稼いでいるかわからないような投資家やIT成金、アジア系マフィア、ヤクザの若頭に比べた

ら、政治家の息子などまともな部類に入る。

おかしい噂の本題は、これからだ。

彼が現れると、必ず誰かが死ぬ。

ある店では照明器具が落ちて客が下敷きになった。ある店では水槽器具が漏電していて店員が感電した。ある店では店長の静脈瘤じょうみやくりゅうが破裂した。ある店では前に駐車してあった車のサイドブレーキがかかっておらず、運のない歩行者が押し潰された。ある店では近くの路上で麻薬中毒患者が刃物を振り回した。ある店では隣の店舗に、酒気帯び運転のトラックが突っ込んだ。

暴力団の抗争が起きて、客が射殺されたことすらあるという。彼と親しくつき合っていた問屋が、仕入れ先のアジア某国でテロに巻き込まれて死んだという話もある。

——この業界では、実際にその現場を目の当たりにした者が少なくない。店の中に黒服の少年を見かけると、誰もが噂を思い出し、縮み上がる。

彼の名はタナトス。